

連載 第19回 北海道の
冬の美しいと怖い
気象キャスターネットワーク

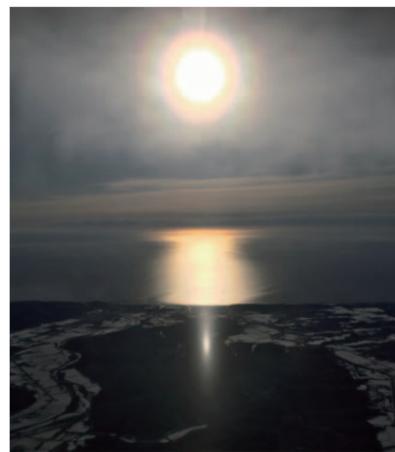


りくべつちよう
日本一寒い町と言われる陸別町では、
空中に投げたお湯は一瞬で凍る

寒さが作る北海道の美しい冬

北海道の冬は自然が作る芸術の宝庫です。ダイヤモンドダストが朝日に照らされて出現する「サンピラー（太陽柱）」や、川や湖が凍る前に発生する「フロストフラワー（霜の花・冬の華）」。オホーツク海には、一面を覆い尽くす「流水」もやってきます。最近では、十勝の豊頃町の海岸で見ることができる「ジュエリーアイス」も人気を集めています。私も、真冬に取材でヘリコプターに乗った時に初めて見たサンピラーには、とても感動しました。

今冬は、今年購入した一眼レフカメラで、たくさん美しい景色を写真に収めたいと思っています。



取材に向かうヘリコプターから見たサンピラー



オホーツク海に広がる流水



朝日とジュエリーアイス

雪の水資源

梅雨が少なく、台風も少ない北海道は、降水量が少ない地域です。

特に、オホーツク海側の北見市～佐呂間町周辺の年間平均降水量は、約700ミリと全国で一番少なくなっています。（東京の半分、九州の3分の1程度）

ただ、北海道で水不足になることは滅多にありません。それは、「白いダム」が存在するから。そう、冬に山に積もった雪が、夏の水資源になっているのです。

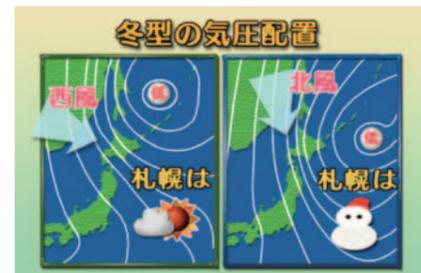
北海道の貯水量は、全国平均の約3倍とも言われています。

北海道の自然は美をもたらし、雪は資源にもなる一方で、時に牙をむき、大雪や猛吹雪が人の命を奪うこともあります。被害に遭わないためにも、ある目安を覚えておきましょう。

北海道の冬の天気・等圧線の向きと数に注目

西高東低の冬型の気圧配置の時、北海道でも日本海側を中心に雪が降りますが、風向きが少し変わるだけで雪の降る場所はガラッと変わります。例として、等圧線が縦縞になっている時は、北風が吹き、札幌や小樽、オホーツク海側の沿岸部などで雪が降り、等圧線が北西から南東に向かって傾いている時は、西からの風が吹き、川や岩見沢、石狩から稚内が雪エリアです。

ツク海側の沿岸部などで雪が降り、等圧線が北西から南東に向かって傾いている時は、西からの風が吹き、川や岩見沢、石狩から稚内が雪エリアです。



札幌は晴れているのに、直ぐ北にある石狩市で猛吹雪となっているなんてことも、珍しくありません。千葉の母から「北海道は大変な天気になっているみたいだけど、大丈夫？」と連絡を受けることがあります。「札幌は晴れているよ」と伝えると驚かれることがしばしばあります。

冬型の気圧配置が強まったとき、気象予報士が注目するのは、北海道にかかる等圧線の本数です。4本かかると、強風や吹雪、6本かかると暴風や猛吹雪になります。

特に、等圧線が縦縞で6本以上かかると、札幌などの中心部で大荒れとなるため、交通機関も混乱し、社会的な影響も大きくなります。

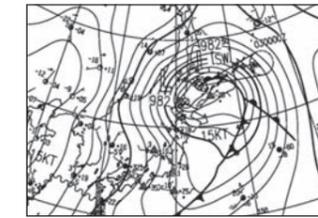
北海道の暴風雪災害・油断が招いた晴れ間

平成25年3月2日、北海道で暴風雪による大きな被害がありました。ちなみに、このとき、北海道にかかる等圧線は9本でした。

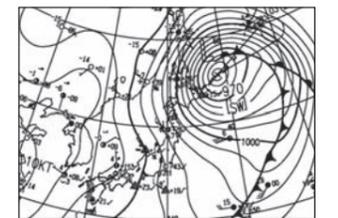
全道で929台の車が猛吹雪や吹き溜まりによって立ち往生、道東を中心に9人が亡くなりました。命を守るためには「外出しない」ということが一番の対策であり、冬の嵐の恐ろしさをよく知る道民の常識でもありましたが、なぜ、多くの人が出し、車の立ち往生に見舞われてしまったのでしょうか。その日は油断を誘う気象条件

だったのです。

これは、暴風雪当日の午前9時と午後9時の天気図です。



2013年3月2日 午前9時



2013年3月2日 午後9時

早朝は吹雪いていたのですが、午前9時の時点では、北海道は2つの低気圧の間に入り、等圧線の間隔も緩み、昼前は青空が見えるほど穏やかな天気となりました。

嵐は収まったと、勘違いをした方々がおそらく外出をしたのでしょ。実際に、週末だったため、学校の発表会などの行事もあったようです。ただ、昼過ぎからは天気が急変、猛吹雪が襲いました。

ホワイトアウトは恐ろしい現象で、数十メートル先も全く見えず、上下左右もわからなくなるほど方向感覚も失います。

道路は、吹き溜まりで立ち往生が相次ぎ、特に道東では、エンジンをかけたまま車の中で待機した方々が、一酸化炭素中毒で死亡したほか、車から出て歩いて避難しようとした方も途中で力尽き凍死する被害が出てしまいました。

今一度、暴風雪が予想される時は外出をしない、また、車には、暖をとれる装備をするなど、本格的な冬を前にしっかりと備えることが大切です。



よしい ようじ
吉井 庸二 Profile

気象予報士・防災士
UHB(北海道文化放送)気象キャスター
千葉県生まれ。
2014年から気象キャスターとして北海道文化放送で勤務。
現在は、FNN Live News daysの北海道ローカルで気象キャスターを担当。
趣味は、写真撮影。
道内の美しい自然を撮影しています。